

事務局報告

○1998年度第2回幹事会・1998年度第1回評議員会

日時：1998年12月5日 10:00~13:00

場所：東北大学理学部附属植物園

1. 新田合同幹事会・評議員会を開催し、総会での報告事項および審議事項について審議した。総会の報告・審議事項と重複しない事項は以下の通りである。
2. 学会第2期の新役員の推薦・承認を行った。会長・評議員・会計監査については推薦のみとした。
3. 事務局の役割分担を確認した。事務局は、事務局長・庶務幹事・会計幹事・渉外幹事で構成することを確認した。
4. 会誌の発行がはかまれているが、今後、新入会員には最新号を送付することで対応していくこととした。
5. 新幹事会において、できるだけ早い時期に各委員会の内規を整備することとした。
6. 学会会計を明瞭なものとするために、事務局および各委員会での事務経費の実質計上の完全を図るようにすることとした。

○第13回日本植生史学会大会

1998年12月5・6日、東北大学理学部附属植物園において、招待講演、一般研究発表（口頭発表とポスター発表）および総会からなる第13回日本植生史学会大会を開催した。今回はシンポジウムを開催せず、一般研究発表を主体にした。大会実行委員長：鈴木三男（東北大学理学部附属植物園）。

◆大会日程

12月5日(土)	14:00~14:10	開会挨拶
	14:10~15:30	一般研究発表
	15:30~16:00	ポスターフラッシュ
	16:20~17:20	招待講演
	17:30~18:00	総会
	18:00~19:00	ポスター発表
	19:00~21:00	懇親会
12月6日(日)	9:30~12:50	一般研究発表
	12:50	閉会

◆招待講演

竹内貞子(斉藤報恩会自然史博物館)：東北地方における後期新生代の植物相および植生の変遷

◆一般研究発表(口頭発表)

松下まり子・兵頭政幸・百原 新・佐藤裕司・田中眞吾・小倉博之：室戸半島大野台海成段丘堆積物の植物化

石群

奥田昌明・安田喜憲・瀬戸口烈司：ギリシャ南東部

Kopais湖における過去約50万年間の植生史復元

清永丈太：神奈川県逗子市、池子遺跡の花粉化石群

生方正俊・星比呂志：花粉の形態は、ミズナラ、カシワ及び種間雑種を識別する指標と成り得るか？

辻 誠一郎：青森平野南部、大矢沢野田の更新世・完新世の層序・編年と植生史研究における意義

木村勝彦：青森市大矢沢野田遺跡の埋没林における年輪年代学的研究

鈴木三男・前田純子・山田昌久：三内丸山遺跡における炭化材樹種組成解析の試み

野手啓行・沖津 進・百原 新：現在の本州におけるトウヒ属バラモミ節の分布

那須浩郎：南軽井沢の化石蘇類群集から復元した晩氷期の針葉樹林の生育立地

野中俊夫：宮城県北部の瀬峰層より産出したシモツケ属化石

住田雅和・辻誠一郎・南木陸彦：サハリン南部セデフ湖の縄文海進以降の大型植物化石群

千藤克彦・植田弥生・新山雅広：材・大型植物・花粉・昆虫・等の分析から明らかになった岐阜県・荒尾南遺跡の古環境変遷

後藤香奈子・辻 誠一郎・吉川昌伸・辻 圭子・住田雅和：青森平野南部の完新世の植生史

◆一般研究発表(ポスター発表)

植村和彦・西田民雄：佐世保含炭地北東部、阿漕の漸新世植物群

佐瀬 隆・細野 衛：テフラ・土壌累積層に記録された最終間氷期以降の植物珪酸体群集変動と和田火山テフラ分布域の例

大井信夫：フィリピン・ルソン島北部カガヤン川下流ラロ地域の完新世堆積物の花粉分析

吉川昌伸：絶対花粉量(Pollen influx)による武蔵野台地東部の植生変遷史

江口誠一・村田泰輔：神奈川県池子遺跡における縄文海進海退期の植物珪酸体化石群と珪藻化石群

村田泰輔：神奈川県逗子市池子遺跡から得られた珪藻化石群集に基づく水域古環境の変遷

河室公康・石塚成宏・南 浩史：黒色土腐植のd130C分析による腐植給源植物の推定

植田弥生：山手宮前遺跡(岐阜県揖斐郡藤橋村)の縄文

時代中期の住居跡出土埋土内の炭化材樹種
能城修一・鈴木三男・辻 誠一郎；佐賀県吉野ヶ里遺跡
の木製品の樹種

鈴木三男：年輪構造によるケヤキ伐採季節特定の試み

◆総会（議事摘要）

議長：谷川章雄（早稲田大学）

I. 報告事項

1. 1998年度事業報告

1-1. 庶務

(1)会員動向（1998年12月1日現在）：404名。

(2)会員名簿作成のためのアンケート調査をした。

(3)1998年7月時点で1994年度までの会費長期未納者
19名を除名した。

1-2. 編集

(1)会誌第6巻第1号を編集・刊行した。第2号以降の編
集を進めた。

1-3. 行事

(1)第12回日本植生史学会大会を1997年12月6・7日、
兵庫県立人と自然の博物館で開催した。

(2)第16回日本植生史学会談話会を日本生態学会第45回
大会の自由集会として1998年3月27日、京都大学総
合人間学部人間環境科学研究科において開催した。
テーマ『Younger Dryasの頃、日本ではブナが増えた』
で、山口健太郎・北川浩之・安田喜憲「福井県水
月湖年縞堆積物の花粉分析に基づく Younger Dryas
前後の植生変遷」の話題提供があった。

(3)第13回日本植生史学会大会を1998年12月5・6日、
東北大学理学部附属植物園で開催すべく準備を進め
た。

2. 1998年度決算報告・会計監査報告

(1997年10月1日～1998年9月30日)

収 入		支 出	
会費	488,000	会誌発行費	779,755
会誌売上	85,200	通信費	84,805
利息	459	事務経費	5,321
		雑費	3,810
収入合計	573,659	支出合計	873,691
前年度繰越金	475,641	次年度繰越金	175,609
合 計	1,049,300	合 計	1,049,300

II. 審議事項

1. 役員を選出

会則に基づき会長・評議員・会計監査を選出した。
新役員は幹事会を含め以下の通りである。

会 長：鈴木三男

評 議 員：植村和彦・谷川章雄・西田治文・福島 司・
南木陸彦

会計監査：車崎正彦

幹 事：辻 誠一郎（事務局長）・田川裕美（庶務）・
江口誠一（会計）・松下まり子（渉外）

編集委員会：能城修一（委員長）・百原 新（副）

行事委員会：木村勝彦（委員長）・半田久美子（副）

情報データベース委員会：高原 光（委員長）・大井信夫
（副）

標本データベース委員会：辻 誠一郎（委員長）・能城
修一（副）

2. 1999年度事業計画

2-1. 庶務

(1)学会員名簿を刊行する。

(2)交換雑誌・寄贈図書を整理し、会員に公開する。

2-2. 編集

(1)会誌第6巻第2号、第7巻第1・2号、第8巻第1号を
編集・刊行する。

2-3. 行事

(1)第17回日本植生史学会談話会を1999年5月15・16
日、青森市三内丸山遺跡と大矢沢野田遺跡において野
外巡検を主体に開催する。

(2)第14回日本植生史学会大会を1999年11月か12月に
開催する。関西を第1候補に開催地を検討する。

3. 1999年度予算案（1998年10月～1999年9月）

収 入		支 出	
会費	1,718,000	会誌発行費	1,874,000
会誌売上	82,000	通信費	75,000
利息	500	事務経費	10,000
		雑費	3,810
		予備費	17,109
収入合計	1,800,500		
前年度繰越金	175,609		
合 計	1,976,109	合 計	1,976,109

（文責：辻 誠一郎）